



教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
発行所 ©1991
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
☎(0797)31-3452

「キリストに似たもの」のしるし

—— 独身と貞潔を守ること。それは、キリストへのひたむきな愛と、キリストゆえに隣人に仕える用意があることを力強く証明している。

—— 清貧(の徳)。モノの所有から生じる権力を放棄したことを示す。

—— 従順。キリストに倣おうとする願いに根ざし、謙遜と神の御旨へのすなおさのしるしである。特に、使徒たちのあとを嗣ぐべく選ばれた人々が身をもって示している。

神の御旨を果す情熱

兄弟姉妹の皆さん。教会での皆さんの独特のすばらしい召しだしは宝です。司祭として皆さんは、叙階の秘跡によって至高の大司祭イエズス

と一致し、修道者として、福音の勧めに従うことを通してキリストの王国での「新しい生命」を生き、証しする者となるのです。いずれにせよ教会での皆さんの生活と仕事とは、救い主とのつながりあってはじめて意味をもつものです。皆さんが主を選んだのではなく、主が、「行って実を結ぶ」(ヨハネ15・16参照) よう皆さんをお選びになったのです。皆さんが主を愛し、誠実に主に仕えるなら、それはまず主の方から皆さんを愛してくださったからです。(ヨハネ①4・9参照) 皆さんが誇れるものは、主が示してくださったあわれみと、お与えになる恩寵のみです。(コリント①4・7参照) ですから主御自身が皆さんの守りであり、いかなる試練からも、どのような状況の時にも皆さんを支える限りない希望の源であらせられます。

実際、キリストとの特別なつながりゆえに、皆さんの払う努力は全て仕事や祈りの中でキリストの愛と熱意を反映するはずで、主は御父から「油を注がれ聖別され」た御方、御父に「遣わされ」た最初の使徒です。(ルカ4・18参照) 主は、御父の救いの御計画のために、自らを完全に捧げられました。「私は、自分の考えではなくて、私を遣わされたお方のみ旨を果すために天から下った。」(ヨハネ6・38) 皆さんも、御父の御旨を果さんとする情熱をもって働かねばなりません。そしてその熱意をあくなき聖性追求と、生き生きとした使命感を養うことに現さねばなりません。(ティモテオ②1・12参照)

皆さんは「誰もキリスト教共同体の中ではよそ者と感ずることはない」と保証する。『司祭の職務と生活に関する教令』(9) 清貧という徳は、修道者が特別な誓いをたてて守るものですが、全ての司祭の生活にも大いに関係があります。司祭は主の大使ですが、その主は貧しさの内に生き、貧しい人々を優先的に愛されるからです。この世の富と、富の所有から生じる「力」を捨てることによって、皆さんは内的な自由を手に入られ、皆さんの人格は豊かに富むものとなるでしょう。

従順は、御父の従順な子であったキリストを真似ようとする願いに根ざします。それは司祭、修道者としての皆さんの身分にとっても不可欠のもので、キリストは従順によって人類を救ったが、キリストの役務者は、従順が自分にとって特に必要な徳であると確信しなければならぬ。『教会の宣教活動に関する教令』(24) 従順は、神の御旨へのへりくだりと素直さのしるしでもありますが。特に「神が御血をもってあがなわれた教会を牧する監督たち」(使徒行録20・28)である使徒たちのあとを嗣ぐべく選ばれた人々が、身をもって従順の徳を示しています。「神の代理者である長上に信仰のうちに服従する」(『修道生活の刷新に関する教令』14) 人々も同様です。司祭の職務と使徒職は、ふつう教会の位階制の中でのみ遂行されるものから、教会の善のためには、皆が心と行動において司祭と一致し、それぞれの教会での奉仕の中で「司祭とともに(…)一つの司祭団を構成」

神の言葉による清め

司祭の皆さんは司教の協力者であり、世の終りまで福音を告げ知らせる使徒的使命に参与しておられます。『司祭の職務と生活に関する教令』(2参照) 「神の民はまず生きた神のことばによって集められる(同4) のですから、神のことばを完全無欠のまま伝え、語る事が司祭の大きな務めとなります。みことばのしもべとして、どうしても必要なのは、まず皆さん自身が御言葉のもつ清め

の力を心に受けることです。こうして救いの真理を人々と共に分かちもつことができるのです。

良い司祭とは、日々熱意を新たに、罪深い人類に向けられたキリストの愛の秘義を全ての人々に教え伝えようと努める司祭のことです。聖体祭儀、たびたびの聖体拝領、常に告解を聴く用意があること、時には個人的な祈りに専念し、また「教会の祈り」を唱え、司祭としてのあらゆる種類の聖務を果すことによつて、「父の家」(ルカ2・49参照)へと向う熱意の火を燃やし続けることができるのです。皆さんの活動全てを贖い主の御母マリアが見守ってくださいますように。御母は、皆さんに御子の命じられることを果すよう、教えてくださるでしょう。(ヨハネ2・5参照)

救いについての《原福音》

「罪」シリーズ ⑪

1 聖体祭儀の第四奉獻文の中で教会は次のように神に語りかけています。「聖なる父よ、わたしたちはあなたをたたえます。あなたは偉大なかた、英知と愛によってすべてのわざを行なわれました。ご自分にかたどって人を造り、造り主であるあなたに仕え、造られたものをすべて支配するよう全世界を人の手におゆだねになりました。人があなたにそむいて、親しい交わりを失ってからも、死の国に見捨てることなく、……と。」

2 (創世3・15) 創世の書のこの部分は、(原福音) または贖い主メシアについての最初のお告げと呼ばれています。それは私たちも知っている、原罪の後の墮落した状態にある人類に關する神の救済の計画を啓示して示すものです。前に引用した第四奉獻文で言及されたのと同じ出来事、その時私たちは主に向い、次のような信仰告白をするのです。「時が満ちて、あなたはひとり子をわたしに救い主としておつかわしになりました。聖なる父よ、あなたはこれほど世を愛してくださったのです。御ひとり子は、聖霊によって人となり、おとめマリアから生まれ、罪のほかは、すべてにおいてわたしたちと同じように生活」なさったと。

創世の書第三章は、人間の最初の罪に対する神の答えを記しています。その複雑な内容が、教会のこの祈りに示された真理と調和している。と前のカテケジスの中で述べました。創世の書第三章は、人類史のそもその初めから人類が巻き込まれてしまった(悪の権力)との戦いについて語っています。同時に、神は人間を死の国に見捨てることはなく、(罪の奴隷(ローマ6・17参照))として墮落させたままにはなさらないということも保証されています。ですから神は、女を誘惑した蛇に告げます。「私は、おまえと女との間に、おまえのすえと女のすえとの間に、敵対を置く。女のすえは、おまえの頭を踏みくだき、おまえのすえは、女のすえのかかとをねらうであろう。」

3 創世の書第三章の記事は(原福音) と呼ばれています。それはキリストの福音である新しい契約という啓示においてのみ、その確証と成就がみられるからです。旧約の契約では、このお告げは数々の異なった方法で常に繰り返して呼び起されました。儀式、象徴的な表現、祈り、預言、メシアを指して努力する(神の民) イスラエルの歴史を

救いを目指して

ものの中で。けれどもそれは、いつも旧約聖書の不完全で暫定的な信仰に覆われており、この御告げがキリストにおいて成就される時こそ、イスラエルの一神教において内在するメシアについての、三位一体についての啓示が余すところなくなされるのです。その時、新約聖書は旧約聖書の著述の意味するところをくまなく発見するよう導いてくれます。聖アウグスティヌスの有名な言葉に

薬剤師は、医薬品を配分するにあたり、市場原理や放任的な法律に負けて、自分の良心の要求を無視することはできません。(教皇様はカトリック薬剤師の国際会議でこのような規則を示された。)

(また、次のように注意を喚起された。) 薬剤師は、治療の目的でない、自然の法則に反した、人間の尊厳を損なうような依頼を受けることもあるでしょう。

したがって、医薬品の調査や使用に關しては、厳格な道徳法を基準にして、それを注意深く守らなければなりません。

市場原理ではなく
良心に従って!

(ヨハネ・パウロ二世教皇様は)人間の生命とその尊厳に反する攻撃が日増しに多くなり、本来直接的にも間接的にも生命に反する目的のために使用されるべきでない薬剤を使用することが多くなった現在、(特にカトリック薬剤師の証人としての働きの大切さを強調されました。)

薬剤師の仲介者としての伝統的な役割がその活動範囲を増してきました。そのため、その役割に対する自覚が今まで以上に要求されています。薬剤師と客、あるいは患者との関係は商売としての面を遙かに越えるものです。当事者の個人的な問題および道徳(倫理)の根本について鋭い認識が要求されます。

(…) 社会が職業上の能力だけでなく、(道徳基準に)忠実な証人としてカトリックの薬剤師を見分けることができるようになるべきです。(少し後で教皇様は次の指摘をなさった。) 受胎の瞬間から最後の瞬間に至るまでの人間の生命と尊厳に關する教会の教えは、倫理的かつ道徳の性格のものであります。したがって、意見の変化や移ろいやすく気まぐれな選択に左右されてはなりません。(…) 教会の教えに従うことは、皆さんの仕事の場合なかなか難しいことでしょう。しかし、カトリック薬剤師にとって、教えは決して無視することのできぬ根本的な指針です。(外からの攻撃に抵抗するだけでなく、良い方向に向かうよう積極的に貢献しなければなりません。) 教会は皆さんの証言を必要としています。その証言は、国などの公的な機関が、法律の中で、神聖な生命の不可侵性、ならびに生命の肉体的、心理的、靈的な条件を向上させるあらゆる事柄を認めるよう、働きかけることによって示すことができるのです。(90・11・3)

4 (原福音) を分析し、そこに含まれている御告げと約束とに目を向けるなら、神は人類を罪と死の権力に委ねてしまわれたのではなかったということがわかるでしょう。神は人類を救うことをお望みでした。神は御自分の方法でそれをな

さいました。卓越した神聖さという尺度に従い、同時に愛なる神のような方だけが見せることのできる表立たない方法で。(原福音) の内容は、(悪の権力) を代表する者と、創世の書で(女のすえ)と呼ばれた者との間に戦いを告げる時(私は敵対を置く)、この表立たない救済を示しています。それはキリストの勝利で終る戦いです。(彼はおまえの頭を踏みくだく)

「旧約聖書の中には新約聖書が隠れており、新約の中には旧約が公開されている」とあります。(Questions in Pentateuchum, II, 73 参照)

付) 『祈り方』がカセット・テープにノ
このたび、教理出版物のうち靈的読書として使
える書物のいくつかを、カセット・テープに録音
することに致しました。第一巻は『祈りと神の現

説教・講話・書簡等の抄訳

けれどもこの勝利は、十字架の犠牲という値を払って得られるものです。「おまえは彼のかかとをねらう」不義の秘義は、「慈悲の秘義」によって追いつかれます。実際、私たちが罪の本質そのものを洞察し、その暗い秘義の何ものかを理解することができるのは、明らかに十字架の犠牲のおかげです。聖パウロはローマ人への手紙の中で、独特のやり方で私たちに導いてくれます。「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とせられたように、一人の従順によって多くが義とされた。」(5・19)「一人の正義の業によって命を与える義もすべての人に及んだ。」(5・18)

5 (原福音) の中では、ある意味で、キリストは「新しいアダム」として初めて告げられていた。(コリント①15・45参照) 実には、罪に対するキリストの勝利は、「十字架の死に至るまでの従順」(フィリッピ2・8参照)を通して得られたものです。最初の罪と全人類のすべての罪との測りしれない悪に打ち勝つには、いかに沢山の赦しと救いの恩寵が必要であるかを暗に示しています。聖パウロは次のように書いています。「一人の罪によって多くの人が死んだとしても、神の恩寵とこのただ一人のイエズス・キリストの恩寵による賜は、多くの人々にあふれるばかりに注がれたからである。」(ローマ5・15)

専ら(原福音)の土台の上に立つなら、墮落した人間の運命に関して将来の贖いの見通しが、すでに提出されていることも推論できます。(次号に続きます)

四旬節は始まり

「服ではなく、心を引き裂きなさい。」(ヨエル2・13)

預言者ヨエルはこのように要求しています。彼は当時の人々が償いや喪に服していることを示すため衣服を裂いて頭に灰を被った習慣に触れています。今日、教会はこの習慣を借りて、私たちの頭に灰をかけます。これには今も意味があります。灰をかける時に加える言葉は創世の書から取ったものですが、それが常に今日の意義を保っていることは明らかです。「おまえはちりであって、ちりに帰るべきものだ。」(創世の書3・19) 人類とすべての被造物が服している死の法を示しているのです。

灰の水曜日という典礼において、この言葉は、私たちに「心を裂く」よう仕向ける力をもっています。預言者ヨエルはまさに「ゴールを見詰めています。メタノイア(償い、改心)とは、特に人を内側から変えること、内的な人を刷新することです。心を裂くことなので、

ダヴィドの詩篇50(ミゼレレ)は確かに心を裂くことの不变の証言と言えます。私たちはこの詩篇が預言者であり王であるダヴィドの心に生れ、口へのほった時の事情を知っています。

幾世代が過ぎ、幾世紀もが経過しました。この詩篇の時代を越えた値打はいさかも減じていません。人間の罪と改心は常にいつまでも生き生きと証言されています。「私は自分のとがを認める、私の罪は常に私の前にある。あなたに向かって私は罪を犯し、御目の前に悪事をおこなった。」(詩篇50・5、6)

「清い心をつくり、新しい確かな霊を与えたまえ。」(同上50(ミ)・12)

「心を裂く」とは、善と悪を意図できる人間の全体的な行為です。良心の努力で心を引き裂くなら、その行為を通して、神がお働きになります。

人は特に、「自分の部屋に入り」、「戸を閉めて」、「隠れたことを見られる」御父とふたりきりにならねばなりません。(マテオ6・6参照) 最後に、断食や献金や祈りなどの償いは、この隠れてという要素がないと、本来の目的を達することができません。その隠れたところでこそ、神は御自分のための場を取り戻されお働きになるからです。

これこそ、「心を裂く」ということの意味です。この四旬節に神が仰せになりたいことは、心を引き裂く真理です。

使徒聖パウロはコリント人への手紙でこの心を引き裂く真理を述べ、私たちに神と和睦せよと呼び掛けます。「神と和睦してとどまれ。罪を知らなかった御方を私たちのために罪とされた。それは、私たちがその方において神の正義とするためである。」(コリント②5・20、21)

使徒はキリストについて話しています。パウロは、キリストのゴルゴタの丘での苦しみと死去を代償として獲得された贖いの秘義について語っているのです。

ただし、それだけではありません。使徒は更に、この秘義の奥底にあることがらについて話しています。御父と同質の御子を見なさい。自分のうちに神の全ての義を有する御方、どこから見ても罪のないのに私たちがのために罪となられた御方を見なさい。「主はみなを罪の上に負わせられた」と、預言者イザヤが数世紀も前に言った通りです。(イザヤ53・6参照)

これこそ、ほんとうに心を裂く真理です。かの真理の名のもと、キリストの御名にかけて、使徒聖パウロ

は、私たちが神と和睦するよう呼びかけているのです。人々は現在この真理を受入れるほどの感受性を備えているのでしょうか。教会による四旬節への呼び掛けに對して、心の中で反対しているのではないのでしょうか。ひよっとすると、技術的、視聽覚的、人間中心的な文明を作り上げているものすべてが、この内的な部屋に近づくことを妨げ、隠れたところで神のみと共にいることを不可能にさせているのではないのでしょうか。真理と恩寵によってのみ癒されることのできる、この救いをもたらす「引き裂き」は、今も人間に可能なのでしょうか。四旬節は始まりです！人々のために祈りましょう！互いに祈り合いましょう！四十日の祈りと償いのあとには、救いの喜びが待っています。「御前から私を退けず、聖なる霊を私から奪わず、救いの喜びを返してください。」(詩篇50(ミ)・13、14) (九〇年・灰の水曜日)

約 税・送料込みで1巻二五〇円です。通勤電車や車中の霊的読書として、また目の不自由な方々のために、お役に立てればと存じます。お申し込み先 699 芦屋市船戸町12-6 精道教育促進協会

信徒の成熟と祈り



信徒が、家庭や社会、仕事、文化環境においてさまざまな困難に遭遇することを、私たちは充分に考慮しなければなりません。キリスト教の要請を満たし、信者にふさわしい生活を送ることは、ある場合にはたいへん努力のいることです。時には英雄的でなければならぬこともあるでしょう。信仰をはっきり証するときはなおさらです。「あなたたちは地の塩だ」と仰せになった主は、「塩がその味を失えば何で塩の味を

不変の教え

つけられようか(マテオ5・13)と警告なさいました。キリスト信者の証言という塩がその味を失わないためには特別の努力が必要なのです。味を失わないよう努力してください。

信徒の使徒職をより効果的にし、またそれを福音のよい精神のうちに支え持続させる、あらゆる手段を講じなければなりません。そこでまず、生活を聖化すること、家庭を聖化することが大切であることを強調したいと思います。

二重生活はできない

第二バティカン公会議の呼びかけに沿って、私は信徒に関する勧告の中で次のように述べました。「『自分のすべての行いを聖とせよ』(ペトロ①1・15)というペトロの招きを寛大な心で受け入れ、福音の力をもって刷新する道をキリスト信者が歩むことは以前にもまして急務である」(16番) 私たち牧者は、聖性あっての刷新であることを確信しなければなりません。聖性においてのみキリスト信者は自らの尊厳を見出し、人生に意味を与える理想を実現させることができるのです。憎しみを愛に、不正義を正義に、分裂を一致に変えることができたのは、聖人だけでした。彼らの力と確信が、この世に勝った御方のうちにあつたからです。(ヨハネ16・33参照)

キリストを規範にしてこの世の現実を正義と愛と平和を反映したものに変わるうえで、信徒は大きな期待を担っています。信徒には何ができるかを考えるだけでなく、何をしな

ければならないかを考えなくてはなりません。そこでまず私たち牧者が信徒に、キリスト信者の生活において成熟するための手段を示さなければならぬのです。先に述べた使徒勧告は次のように教えています。「聖霊に従った生活の実りは聖なるもので、イエズス・キリストに従い、倣うように誰もが導かれ、招かれている。それは至福八端の精神を持ち、神のこぼれを聞き、黙想し、喜んで教会の典礼と秘跡にしばしば与り、個人的に、家族と共に、共同体の中で祈ることによって可能となる」(16番)

祈りと「生活の一致」

祈りの大切さを今一度強調したいと思えます。祈ることはキリスト者特に信徒の土台です。人をキリスト者にするということは、その人を祈りの人にする事です。父なる神と交わり、自分が神の子であることを深く理解する人にする事なのです。

祈りとともに「生活の一致」がなければなりません。祈りを毎日の生活の中に組み入れると、キリスト信者としてのもう一つの大切な土台を見出します。実生活に受肉した、つまり、日常生活の中に完全に組み込まれた信仰の事です。「信徒は教会の一員であることと、人間社会の一員であることを一致させなければならぬ。二重の生活はあり得ない。すなわち、一方で霊的な価値と要求を伴ったいわゆる『霊的な』生活、他方家庭や職場、社会、公共や文化の場における『世俗的』な生活、

という二重生活はあり得ない」(59番)と使徒勧告は教えています。この一致を実現させるための原動力は愛です。愛は全てを、神への愛、人々への愛に向かわせます。

聖化の場として、また社会構造の基礎として特に大切な役割を担うのが家庭です。国家は若者の育成と教育、道徳規範の確立、伝統の継承、



皆さんは、教会と明日の社会を築くよう召されています。

「自分を救うか、さもなければ、社会と共に滅びるか。」ですから、将来良いキリスト信者、より正確に言うところキリストの弟子になる心構えをしなければなりません。全ての人々の期待を背負い、受洗の時の信仰宣言から生じる約束全てを一貫性を持って真剣に果さなければなりません。

私たちは皆洗礼を受けています。そこに、キリスト信者であることの根本があります。

つまり、キリスト教的生活に関する約束と宣言を見出すのです。このことについてしばしば考えるべきです。そして洗礼の恵み、私たち一人ひとりの中に刻みつけられている洗礼による印章、洗礼の信仰宣言に立ち返らなければなりません。

それはまず第一に、皆さんが神の御言葉を熱心に聞く人にならなければならぬということの意味します。福音書は、それがあらゆる個人的な

人類の発展といった多くの難題を抱えています。これらは全て一つ家庭の問題に集約できるのではないのでしょうか。

若者に対する家庭でのキリスト教教育が、司祭や修道者の召命を育むのに大切な役割を担っています。神の司祭になるようにという呼びかけをしっかりと受けとめ、理解し、発

計画と使徒職活動のための土台となるなら、生命の泉、試練の時の支え、知性を真理に、心を愛に向ける原点となります。真理と愛は二つの偉大な霊的現実です。私たちは、個性と特に洗礼の恩寵によって真理と愛というこの二つの現実を生き、全うするよう召されています。

次に、御言葉を忠実に聞くことに加えて、秘跡、特に赦しの秘跡と聖体の秘跡にふさわしい心構えをもつ

神のこゝろばを聞き、連帯と一致を築こう

度々与ることです。聖体がキリスト教的生活の中心であるならば、赦しの秘跡は精神の新たな活力の源であることを忘れないでください。

それに加えて、個人で、あるいはグループで、主と特別に親しい語り合いをする時間を決め、多くの祈りで皆さんの一日を豊かなものにするように。ただ主とのたゆまぬつき合いによってのみ、私たち一人ひとり

展させるためには、信仰深い言行に満ちた生活と徳の絶えまない実践に現れるキリスト教教育が施されていなければなりません。この意味で、第二バティカン公会議は家庭を最初の神学校と呼びましたが、それは家庭が司祭の召し出しの増加に大きく貢献するからなのです。(2番参照)

(90・2・5)

は内的にキリストの弟子となることができます。神のおっしゃることを静かに聞き、反省し、潜心するひとときを持つことによって、キリスト信者は神秘について他の人に話し、それを伝え、また他の人の前でそれを証明することができるようになります。

愛する若者の皆さん、主と深く交わるることによってのみ、キリスト教的連帯と誠実な友情の真の絆を築くことができます。「私があなたたちに命じるのは互いに愛し合うことである」(ヨハネ15・17)

主が受難の前夜に高間で使徒たちにお与えになった掟は、同じ力をもって今日教会の中で再びごだまします。それは、信者の一致という希望をかなえるよう招いています。この一致は、福音を効果的に世の中に宣言するための条件です。

世界は、キリスト信者から言葉だけではない生きたい行いによる、兄弟愛の具体的な模範を待ち望んでいます。今日、特に利己主義、無関心、暴力によってしばしば傷つけられているこの社会に、この愛の掟を實踐できるということを示す証明しなくてはなりません。

(90・7・2)

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部八十円 送料実費

一年予約九〇〇円 送料六〇〇円 二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 3-72393